

# 「観光振興と地域活性化」

～地域に根ざした観光産業振興の実現～

講師：宮城県経済商工観光部観光課 主任主査 庄子 智広氏  
道の駅上品の郷 駅長 太田 実氏

当財団は、平成22年9月27日(月)七十七銀行本店5階会議室において特定テーマセミナー「観光振興と地域活性化」～地域に根ざした観光産業振興の実現～を開催いたしました。

当日は約50名の中小企業の企業経営者等の皆様にご参加いただき、宮城県の観光の現状と課題、「観光振興と地域活性化」の具体的な取組み等についての講義並びに個別相談会を実施しました。

本特集では、講師にお招きした宮城県経済商工観光部観光課 主任主査 庄子 智広氏、道の駅上品の郷 駅長 太田 実氏による講演内容の概略を紹介いたします。

## ◆講演◆「宮城県の観光の現状と今後の課題」

講師：宮城県経済商工観光部観光課 主任主査 庄子 智広氏

### 《観光が果たす役割》

#### ●定住人口の減少を補う交流人口の増加を実現

- 日本：人口減少社会→定住人口の減少  
→消費の縮小・生産活動の縮小→経済全体の規模の縮小  
⇒定住人口の減少によるマイナスの影響を交流人口の増加によって補う。
- ※観光により交流人口の増加を実現

- 観光庁の試算  
定住人口1人の減少による消費額の低下は、国内日帰り旅行者79人、国内宿泊旅行者24人、外国人旅行者7人の増加によってカバー可能。



庄子 智広氏

#### ●経済への効果大きい

- 観光＝第1次から第2次、第3次産業まで幅広く関わる総合産業  
経済波及効果や雇用効果が大きい産業分野

- ・直接効果… 生産額5,387億円、雇用者59,558人
- ・第一次波及効果…生産額1,945億円、雇用者11,029人
- ・第二次波及効果…生産額1,367億円、雇用者 8,411人
- ・総合波及効果… 生産額8,699億円、雇用者78,998人（「平成17年宮城県産業連関表」による試算）

#### ●「みやぎの将来ビジョン」における観光の位置づけ

- ・「観光関連産業」＝経済波及効果の大きい分野であり、今後の宮城県経済成長のカギとなるもの
- ・「宮城の未来をつくる33の取組」の一つとして観光への取組を明記  
「地域がうるおう、訪れてよしの観光王国みやぎの実現」
- ・数値目標（平成25年）…観光客入込数6,500万人、観光消費額6,300億円など（宮城の将来ビジョン第2期行動計画）

### 《宮城県の観光に関する現状》

#### ●宮城県における観光の現状

- 宮城県への宿泊観光客数の推移  
・年間800万人前後で推移
- 宮城県への宿泊観光客の現状  
・宮城県内及び東北地方からの宿泊観光客が多い  
・夏～秋の宿泊観光客が多い
- 宮城県の観光消費額  
・経済不況等の影響によって旅行にかかる費用が減少し、観光消費額が減少
- 宮城県への外国人観光客宿泊者数の推移  
・平成21年は世界的な経済不況、円高、新型インフルエンザ、航空便の減少等の影響により減少

#### ●宮城県の観光に関する施策

- 「みやぎ観光戦略プラン」平成18年～平成22年
    - ①みやぎの情報発信・誘客プロジェクト（「いざなう」）
      - ・仙台・宮城DC等の誘客活動
      - ・インターネット等を用いた情報発信
      - ・外国人観光客の誘客
    - ②みやぎの魅力創出プロジェクト（「もてなす」）
      - ・ホスピタリティ向上のための取組
      - ・体験型・交流型観光の地域資源の向上
    - ③みやぎの連携・組織づくりプロジェクト（「ととのえる」）
      - ・仙台・宮城DCのための体制整備
      - ・東北観光推進機構設立
  - 成果（例） 仙台・宮城DC
    - ・誘客活動の実施により、関東方面からの誘客増加
    - ・宮城県、市町村、観光事業者、関係事業者の連携体制の確立
- ※仙台・宮城DC＝仙台・宮城デステーションキャンペーン

## 《宮城県の観光に関する課題》

### ●魅力ある観光地づくり

#### ○観光客のニーズの把握

- ・ニーズ分析：(例) 旅行の動機、行ってみたい旅行のタイプ、外国人観光客が日本に求めるもの
- ニーズを踏まえた観光地づくり、誘客活動等の取組

#### ○新しい観光（体験型・交流型観光）への対応

- (例) エコツーリズム、グリーンツーリズム、産業観光
- 宮城県の特色を生かしたものとする

#### ○「宮城らしい」観光資源の醸成

- ・他の地域との差別化

#### ○人材育成

- ・おもてなしの向上など観光に関係する人材の育成
- ・県民全体における観光に関する意識の醸成

### ●市町村・都道府県の連携の強化

<東北>

- ・東北新幹線新青森延伸（平成22年12月）
- ・三陸道の延伸、仙台都市圏高速環状ネットワークの完成等の道路網の整備



観光客の行動範囲の拡大



<地域間連携の推進>

- ・近隣の地域・市町村・都道府県が連携して、観光客の域内の流動化を促進
- ・東北全体を一つの観光ルートとして他の地域や海外との誘客の競争

<他の地域>

- ・九州新幹線等の開通
- ・他の空港における国際航空路の開設



他の地域との誘客競争



### ●少子高齢化への対応

- ・アクティブ・シニアの増加を考慮した取組の必要性

## 《宮城県の観光に関する今後の取組》

### ●宮城県の今後の取組

#### ○みやぎの魅力の向上・発信のための取組（例）

- ・仙台・宮城【伊達な旅】キャンペーンの実施（県・市町村・民間事業者が連携した取組）
- ・人材育成のための研修の実施
- ・インターネットを活用した情報発信
- ・広域観光案内板等の整備

#### ○広域的な観光充実のための取組

- ・東北観光推進機構等との広域観光の取組の実施
- ・東北を一体とした広域的な観光ルートの整備

#### ○インバウンドへの取組

- ・海外旅行博出展、旅行会社等の宮城県への招請などの海外からの誘客のための取組
- ・通訳及びガイドの育成、多言語対応案内板設置、両替所設置などの受入態勢整備（ハード・ソフト）

#### ○関東以西からの誘客のための取組

- ・首都圏等における観光客誘致キャラバンの実施などの誘客活動
- ・インターネットなどによる宮城県に関する情報の発信

#### ○アクティブ・シニア等への対応のための取組

- ・安全に配慮した施設などの高齢者の受入態勢整備（ハード・ソフト）
- ・ねんりんピック（平成24年宮城県開催予定）との連携

#### ○新しい観光戦略プランの策定

- ・「観光王国みやぎ」の実現のための計画として、(仮称)「第2期みやぎ観光戦略プラン」を平成22年度中に策定

### 仙台・宮城【伊達な旅】キャンペーン

- 期間：平成22年10月～12月  
(平成20年秋：D C  
→平成21年・平成22年秋：「伊達な旅」キャンペーン)
- 仙台・宮城の魅力のアピール
  - ・多彩な「食」
  - ・豊かな「自然」
  - ・豊富な「温泉」 など
- 栗駒への誘客
  - ・ガイドブックへの特集記事や首都圏向け観光情報誌への掲載などのPR
  - ・定期観光バスのルート化、高速バスの運行 など

## ◆講演◆『道の駅上品の郷』の運営と地域活性化

講師：道の駅上品の郷 駅長 太田 実 氏

### 《道の駅「上品(じょうぼん)の郷(さと)」概要》

#### ●道の駅「上品の郷」とは

##### ○名前の由来

- ・「上品」は仏教用語の九品の一番上のことを言い、極楽浄土を意味する。
- ・道の駅の前にあり、平地に一つだけある高い山「上品山」の麓に立地。

##### ○建設の特徴

- ・建設コンセプトは「癒しの場」。
- ・自然を体感できるように木造で造った。
- ・旧河北町は船運で栄えた町であり、国道を北上川に見立てた「船着場」のイメージ。

#### ●施設の概要

##### ○駐車場

- ・211台（大型10台、普通車197台、身体障害者用4台）

##### ○トイレ・道路情報コーナー施設

- ・トイレ 男：13（大3、小10） 女：10 多目的：2
- ・道路情報提供コーナー
- ・無料休憩所

##### ○コンビニエンスストア

- ・Yショップと提携
- ・お土産等販売コーナー設置

##### ○農産物等直売所「ひたかみ」

- ・参加者数：203名（事業所） ※H22. 6月末現在  
旧河北町内：72名（事業所）  
株主 ※野菜・花卉40、農産加工13、菓子5、水産4、その他10  
一般野菜出荷者22名  
石巻市内：59事業所  
その他：50事業所
- ・手数料：株主…常温で14～16%、冷蔵（凍）で18～20%  
非株主…常温で16～18%、冷蔵（凍）で20～22%  
※参加者は、納品・陳列のみ。販売・クレーム対応は全て会社側。

##### ○レストラン「葉」

- ・客席数：約118席
- ・バイキング料理を提供（昼：1,000円、夏期間夜1,300円）
- ・うどん、そば、定食コーナー

##### ○温泉保養施設

- ・浴室：2種類（さくら：木）（かしわ：石）の風呂を週がわりで交換。
- ・泉質：含鉄・ナトリウム・カルシウム—塩化物泉
- ・最大利用：1日800人（衛生面の観点を考慮）

##### ○足湯：無料

##### ○テナント：5事業者（そば屋、串焼き屋、花屋、JA、マッサージ）

##### ○フリーマーケット



太田 実氏



上品の郷



大浴場：かしわ

#### 【サービス社訓】

- ・今日一日先ず 笑顔
- ・返事はハイ
- ・言われたことは すぐ実行
- ・礼儀正しく 動作キビキビ
- ・言葉ハキハキ 態度明るく
- ・感謝の気持ちでがんばります

### 《運営状況》

#### ●道の駅開設の目的

##### ○地域の活性化

- ・地域住民に夢を抱いてもらえる喜び
- ・商売繁盛のためには地域全体の活性化が必要。

##### ○健康施設の創設

- ・明治の湯場の復活
- ・お年寄りがゆっくり休んでお話ができる場所を作りたい。
- ・農作業時の疲れを癒してもらいたい。
- ・寒い冬に温泉に浸かって身体を暖めてほしい。

##### ○雇用の場の確保

- ・社員・アルバイトあわせて約70人
- ・委託（製造関係）、生産者、業者あわせて約300人

#### ●経営理念

- ・お客様に対するサービスを最大限心掛け、経営の合理化と節減を図り、地域に貢献できる企業として成長する。
- ・日本全国の皆様から愛され、親しまれ、また行ってみたいと言われる施設として、地域活性化に貢献する。

## ●経営の特徴

### ○顧客に対するサービス第一

- ・「モノを売るのではなく心を売る」ことで、多くのリピーターが訪れる。
- ・人と接するときは、「人様のために」という奉仕の心を加える。
- ・「新商品を加える」ことで、次に訪れるときにどう変わっているかという期待感を持たせる。

### ○アイデアを実行すること

- ・アイデアはすぐにメモをとること。
- ・アイデアは出すだけではなく、必ず実現すること。(すぐやる、必ずやる、出来るまでやる)

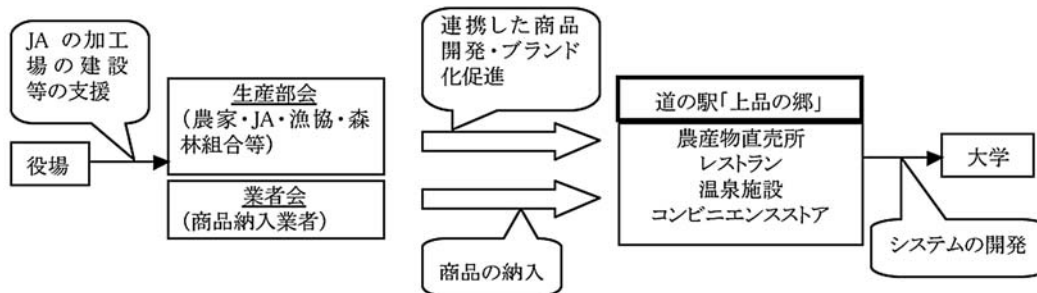
### ○人的ネットワークの活用

- ・誰もができて他所でしていないことを実践することができれば、特別な施設は必要ない。
- ・ゴミ拾いや庭先に花を植えるなど、住民を巻き込んだ共同社会を実現する。

### ○様々な主体との連携

- ・他の道の駅との連携…全国の特徴ある道の駅間で産品交流。
- ・「学」との連携…トレーサビリティ・システムの実現、ウェブサイトの開設。

#### 農工商連携の取組事例



## 《地域活性化への取組》

### ●安心・安全を意識した販売システムの構築

#### ○直売所出荷者に対するエコファーマー認証取得の推進

- ・現在では、出荷者の約93%が宮城県のエコファーマー認定者。

#### ○宮城県における地産地消レストランの推奨店第一号

- ・すべて手作りで、地産地消を行うことで大型量販店との差別化を図る。

### ●地域活性化への取組

#### ○地域の学校と連携したイベントの開催

- ・地元保育園…子供神輿（子供たちが神輿を背負って施設内を練り歩く）
- ・地元小学校…温泉の来場者との交流（高齢者への肩たたきなどのふれあい活動）、学校菜園の作物販売体験、イベント参加
- ・地元中学校・高校…学校菜園の作物販売体験の受入れ、インターンシップ受入れ
- ・専門学校…1ヶ月の研修受入れ
- ・大学…研修・実習の受入れ、加工品の実証販売の受入れ

#### ○地元のリピーターを重視

- ・道の駅を「立ち寄り場所」ではなく、「目的地」とし、「リピーター」を増やしていくこと。



レストラン

#### 【仙台・宮城観光キャンペーン推進協議会】

- 住所  
仙台市青葉区本町三丁目8番1号（宮城県観光課内）
- 電話番号  
022-211-2895
- FAX  
022-211-2829
- ホームページアドレス（PC版）  
<http://www.sendaimiyagidc.jp/>
- ホームページアドレス（携帯版）  
<http://www.sendaimiyagidc.jp/m/>

#### 【株式会社かほく 上品の郷】

- 住所  
石巻市小船越字二子北下1-1
- 開設  
平成17年3月（会社設立：平成16年10月）
- 電話番号 管理事務所：0225-62-3670  
ふたごの湯：0225-62-4126
- メールアドレス  
joubon@mediaship.ne.jp
- ホームページアドレス  
<http://www.joubon.com>